Convi.BASE® on Cloud
Enterprise Edition

ユーザー事例

双日株式会社

約１万2000点の什器備品をクラウド版Convi.BASEとアウトソーシングサービスで管理し、導入以来、棚卸し照合率100%をキープ

Company Profile

双日株式会社
〒100-8691
東京都千代田区内幸町 2-1-1
代表番号 03-6871-5000
https://www.sojitz.com/jp/

sojitz
New way, New value

背　景

双日株式会社は、旧ニチメンと旧日商岩井が 2004 年に合併してできた総合商社です。ともに長い歴史を持つ両社が合併した経緯もあり、什器備品はそれぞれ別々に管理していましたが、2012 年の本社ビル移転に合わせて、総務課が管理する約 1 万 2000 点の什器備品をクラウド版 Convi.BASE で統合管理することを決断。以来、照合率 100%という高い精度の現物照合を実現しています。システムの選択・導入に携わった同社の総務課、およびオフィス・社宅等不動産の管理業務を担っている双日総合管理の皆様に、導入経緯と具体的な活用状況を伺いました。

右から　双日人事総務部 総務課 課長補佐 井元正典 氏
双日総合管理 PM 事業本部 FS 事業部 担当部長 堀川隆夫 氏
双日総合管理 PM 事業本部 FS 事業部 主任 高橋博行 氏

本社オフィスの移転を機に刷新した什器備品　約1万2000点の統合管理を目指してクラウド版Convi.BASEを選択

__Convi.BASEを導入されることになった経緯をお聞かせください。

井元氏　弊社は旧ニチメンと旧日商岩井が2004年4月に合併して誕生した会社です。その歴史的な経緯もあり、合併後もそれぞれの什器備品を転用していましたが、2012年に現在のオフィスに本社を移転した際、そうした什器備品を一新したことを契機として、現物照合も効率的に管理することとし、什器備品管理のため照合システムを検討することになったのです。

__Convi.BASE を知ることになったきっかけ、選択された理由をお聞かせください。

井元氏　物品管理のシステムを調べていたところ、たまたま展示会でネットレックスさんのデモを見たのがきっかけでした。その後、数社にデモを見せていただきましたが、やはりConvi.BASEの特徴である、バーコードで什器備品を管理できる点に魅力を感じました。また、Convi.BASEは管理項目を自由に設定できるので、弊社の会計システムとの連携もよく、資産物品管理システムとしての導入実績が断トツであったのも安心感につながりました。また、システムだけでなく、実際に現物照合作業が実施できるよう作業手順の整理から、作業員の手配までワンストップで対応可能だったことも大きな要因です。なお、今回はクラウド版を導入しましたが、事前に弊社の情報企画部にクラウドの安全性を確認してもらい、まったく問題ないという判断でした。

__導入時のコンサルティングサービス、ラベル貼りや棚卸し業務のアウトソーシングサービスも活用されたと伺いました。

堀川氏　たとえばラベルを1枚貼るのでも、我々にはどこに貼るのが最適なのか分かりません。管理する什器備品は東京・大阪合わせて1万2000点ありましたので、コンサルティングサービスとアウトソーシングサービスはぜひ活用しようと考えました。

アウトソーシングサービスを活用してラベル貼りと棚卸しを実施
棚卸しでは現物照合率100%をキープ

__導入時のコンサルティングサービス、ラベル貼り等のアウトソーシングサービスについてのご評価をいただけますか。

堀川氏　導入前のコンサルティングサービスでは、作業手順のフローチャート作成や項目設定、ラベルの名前の付け方、さらには弊社の固定資産システムとのマッチングなどを考慮して適切な導入計画を立てていただけました。ミーティングを重ねるうちに、お互いが納得できる

双日株式会社 人事総務部 総務課
課長補佐 井元正典 氏
「今回は、クラウド版の Convi.BASE を導入するとともに、導入時のコンサルティングサービス、ラベル貼りや棚卸し業務のアウトソーシングサービスを利用しました。」

ところまでいけたと思います。導入時のラベル貼りも、約1万2000点の什器備品を3日で完了しました。実作業は約2.5日で残りはチェックです。あらかじめ物品によってラベルを貼る位置を決めたりチームごとに作業を分担してすすめたりするなど、非常に効率的だったと思います。もしも我々自身で作業していたら、とても3日では終わらなかったでしょう。

__棚卸し業務のアウトソーシングサービスについてはいかがだったでしょうか。

堀川氏　これまで、すでに3回、期末ごとに棚卸しを実施していますが、すべて現物との照合率100％を達成しています。1つでも照合できないと追跡して調べる必要がありますから非常に助かっています。なお、弊社ではフロア図に什器備品を書き込んだ図面を作って管理しています。棚卸し作業で物品のバーコードを読み取る際にはこの図面を参照しながら作業しますので、ネットレックスさんには図面との食い違いも確認していただき、図面のアップデートにも貢献していただきました。

会計システムとのデータ連携にも柔軟に対応できて、操作性・サポートともに満足

__Convi.BASEのソフトウェアの機能・操作性、サポート面の評価はいかがでしょうか。

堀川氏　双日においては、サーバ上の会計システムで固定資産管理を行っています。会社の決算情報のベースになる非常に重要なデータなのですが、Convi.BASEは、この会計システムの固定資産データを手軽に取り込める柔軟性を持っています。会計システムから必要な情報を簡単にインポートできるので二重管理も防げます。また、サポート面もとても満足しています。電話はすぐにつながりますし専門知識を持った担当者がしっかり対応してくれます。たとえば、以前、ラベルプリンタの設定がわからなくて電話で問い合わせたのですが、丁寧に対応してもらえました。

高橋氏　今回、棚卸し作業の現場に立ち会い報告書のとりまとめ等を担当しました。また、実際にハンディターミナルを持ってバーコードを読み取る作業も、一部担当しましたが、まったく問題なく完了できました。私は運用がスタートしてから管理に関わることになったのですが、固定資産を管理しているシステム、Convi.BASEによるクラウドでのデータ管理、そしてハンディターミナルによる読み取り作業の3つが、とてもスムーズにつながっていると感じます。当初の導入コンサルティングでの設計がしっかりしていたからだと思います。

双日総合管理 PM事業本部 FS事業部
担当部長 堀川隆夫 氏
「什器備品にラベルを貼る作業は、もし我々自身でやっていたら、とても 3 日では終わらなかったでしょう。」

定期的な棚卸し業務における現物照合率 100% の継続を目指す

__「Convi.BASE」の今後の活用についてお聞かせください。

井元氏　すでに、2014年9月、2015年3月、2015年9月に棚卸しを実施し、3回続けて現物照合率100％をキープできていますので、現時点ではそれ以上は望んでいません。本当に満足しています。今後は当社の社宅・寮の備品などの管理対象の拡大だけでなく、現物照合に近い業務フローへの展開など、システムの機能を幅広く利用できないかを検討したいですね。

双日総合管理 PM事業本部 FS事業部
主任 高橋博行 氏
「現場を担当する立場としては照合率 100％をキープできるように、引き続きネットレックスさんにご協力いただきたいと思います。」

__ありがとうございます。最後に、ネットレックスへのご要望がありました、お聞かせください。

堀川氏　ぜひ、現在のアウトソーシングサービスとサポートのレベルを維持していただければと思います。ソフトウェアの操作性や機能について、細かい部分での改善希望もありますので、そこはぜひ対応していただけるとうれしいですね。

高橋氏　現場の担当としては、今後も現物照合率100％を続けたいと考えていますので、ぜひ、引き続きご協力いただければと思います。

__ありがとうございます。今後も、より満足していただけるように、ソフトウェア、サービスのクオリティ向上につとめてまいります。本日は、貴重なお話をありがとうございました。

NETREQS
株式会社ネットレックス
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-11-10 PMO日本橋茅場町ビル8F
Tel. 03-5643-6743　https://www.netreqs.co.jp
Convi.BASE サイト▶https://convibase.jp

●会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
●本事例中に記載の所属・役職・社名および内容はインタビュー当時のものとなります。詳細はお問い合わせください。

Convi.BASE® on Cloud
Enterprise Edition

ユーザー事例

公益財団法人 がん研究会

分散していた資産管理を「Convi.BASE」で統合

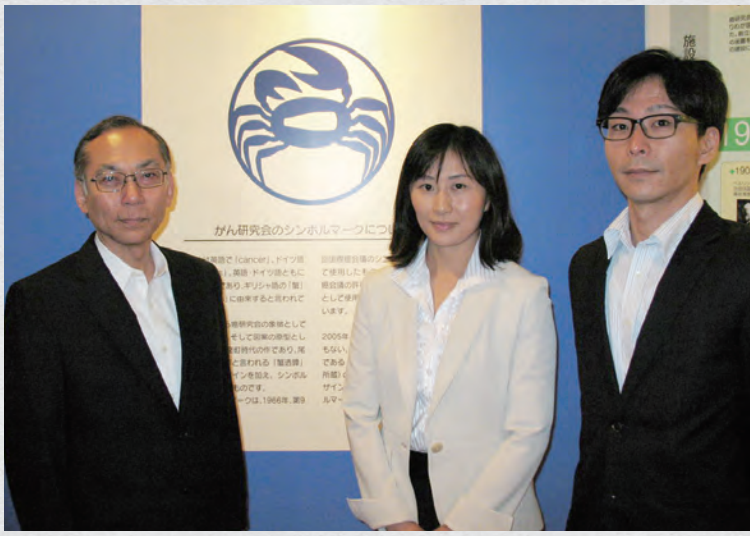
［販売パートナー］ Canon キヤノンITソリューションズ株式会社

Company Profile

公益財団法人 がん研究会
〒135-8550
東京都江東区有明 3-8-31（臨海副都心）
代表電話 03-3520-0111
http://www.jfcr.or.jp

背　景

公益財団法人がん研究会は、明治41年に設立された日本最初のがん専門機関です。「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」という基本理念を達成するため、研究所、病院、および化学療法センター等で組織されています。医療機関であるため、医療機器や検査装置など、さまざまな資産を保有していますが、これまでは、組織ごとにバラバラに管理していました。ところが、2011年の内部監査をきっかけに、より厳格な資産管理を求められるようになり、それが「Convi.BASE」の導入へとつながりました。製品の選定・導入に携わった皆様に、その経緯について伺いました。



左から　経営本部 経営管理センター　購買・IT 推進部 IT 推進課　鈴木実 氏
財務部 経理課　志田美枝子 氏
購買・IT 推進部 購買・施設課　松井真一 氏

コンプライアンス部門の内部監査により固定資産管理の問題点を指摘

__「Convi.BASE」を導入されることになった経緯についてお聞かせください。

松井氏　当研究会は、大きく研究所、病院、化学療法センターの3つの組織に分かれています。医療機器や研究装置などの高額の機器も含めて、これまでも20万円以上の物品は固定資産として管理していましたが、システム化されていたわけでなく、各組織がバラバラに管理していたのが実態でした。管理方法も、ある組織はExcel、別の組織は紙の台帳というように統一されておらず、固定資産を一括で会計処理する財務部門との整合性も不十分でした。じつは、こうした問題は、今から約3年前の2011年、コンプライアンスを担当する部署が実施した内部監査で浮き彫りになりました。その結果、より精度の高い資産管理が求められるようになり、「Convi.BASE」を導入することになったのです。

__固定資産を各組織で別々に管理していたことによる弊害は、現場にもあったのでしょうか。

志田氏　財務部門では、20万円以上の物品を固定資産台帳に登録していましたので、新しく購入された物品の設置場所や名前などを確認しなければなりません。そのため、月に一回は、メモを取りながら各組織を回り、物品を1つずつ確認する作業が必要でした。

機能とコストパフォーマンスを評価して「Convi.BASE」を導入し、現在、約 8000 件のデータを登録・管理

__「Convi.BASE」を選択された理由をお聞かせください。

鈴木氏　資産管理の統合の為に資産管理のソリューションを探していたときに、展示会で知り合ったキヤノンITソリューションズさんにご紹介いただいたのが「Convi.BASE」でした。2013 年の夏から本格的な調査を開始し、最終的に 5 製品から 2 製品に絞り込んで比較・検討を重ねました。そして、2014 年の年明けに、正式に「Convi.BASE」に決定し、3 月には稼働を開始しています。「Convi.BASE」で特に高く評価したのは、次のような機能です。

- 一覧表示画面でフィルターによるソートができる。
- ラベルプリンタによる印刷が容易。
- バーコードの管理ラベル出力が可能。
- 項目の自由度が高い。
- 外部データを取り込む機能が強い。

また、全体的にシステムとしての完成度が高く、導入後、すぐに利用できて、かつコストパフォーマンスが高かったことも大きな理由です。

__現在は、どのような使い方をされているのでしょうか。

鈴木氏　「Convi.BASE」導入後は、20万円以上の物品だけでなく、20万円未満の物品を購入した場合も「Convi.BASE」に登録し、ラベルを印刷して貼るようにルールを改訂しました。いまは、3つの組織それぞれが、物品購入時に必ず「Convi.BASE」に登録しています。また、既存の20万円以上の資産についても、現在、確認しながら登録しているところです。その結果、現在、約8000件のデータが登録されています。なお、本格的な棚卸しは今後実施する予定です。

購入物品の確認作業が効率化し、監査にもしっかり対応できる仕組みを構築

__「Convi.BASE」による具体的な成果は出ていますか。

志田氏　以前は、毎月１回、各組織を回って購入された物品を確認していましたが、いまは「Convi.BASE」の画面を見れば、すぐに確認できるようになりました。また、確認ミスや登録漏れがなくなったのも大きな成果だと思います。さらに、毎月、病院の収支を分析するため、医療情報課に購入物品の情報を提出する必要があるのですが、その作業も大幅に効率化できました。

鈴木氏　本格的な成果は、棚卸しを実施したときにわかると思います。いまは、物品にラベルを貼り、着々と準備をすすめている段階です。ただ、じつをいうと「Convi.BASE」導入以前は、消耗品や医薬品などの棚卸しはやっていたものの、医療機器も含めた全体の棚卸しは、実施方法等が曖昧でした。「Convi.BASE」によって、ようやくその準備が整ったのです。

経営本部 経営管理センター
購買・IT 推進部 IT 推進課
鈴木実 氏

公益財団法人 がん研究会 有明病院

__「Convi.BASE」導入のきっかけとなったコンプライアンスの観点ではいかがでしょうか。

松井氏　3つの組織が、それぞれ購入した資産を「Convi.BASE」に登録し、財務の担当者が、そのデータにアクセスして固定資産の台帳とリンクする仕組みができあがりました。つまり、「Convi.BASE」による資産管理と財務が使っている会計システムがつながりましたので、監査に対して、しっかりと説明できるようになったことが大きいと思います。今後、棚卸しを実施できる仕組みが構築できればよいと期待しております。

経営本部 経営管理センター
購買・IT 推進部 購買・施設課
松井真一 氏

機器の画像や保守期限・更新期限も登録して、より効率的な資産管理を目指す

__「Convi.BASE」の今後の活用についてお聞かせください。

松井氏　資産の画像をもっと登録したいと考えています。医療機器は外観が似たものが多く、名前や型番だけでは区別が難しい場合も少なくありません。このため、撮影して画像を登録しておけば、棚卸しのとき、誰が担当になっても間違いを防ぐことができます。また、保守期限や更新期限がある資産も多いので、こうした情報も登録し、どのタイミングで何を更新すればよいのかが、わかるようにしたいとも考えています。

経営本部 経営管理センター
財務部 経理課
志田美枝子 氏

__ネットレックスに期待することがあれば、お聞かせください。

鈴木氏　活用方法も含めて、さまざまな情報を提供していただければと思います。機能強化やバージョンアップの情報はメールで受け取っていますが、他の情報に埋もれてしまいがちですので、我々に有用と思われる情報があったら、ぜひ積極的に教えていただきたいですね。

__情報提供や活用方法の提案は、ぜひ積極的に対応させていただきます。本日は、貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

NETREQS
株式会社ネットレックス
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-11-10 PMO日本橋茅場町ビル8F
Tel. 03-5643-6743　https://www.netreqs.co.jp
Convi.BASE サイト▶https://convibase.jp

●会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
●本事例中に記載の所属・役職・社名および内容はインタビュー当時のものとなります。詳細はお問い合わせください。

Convi.BASE® on Cloud
Enterprise Edition

ユーザー事例

長野県信用農業協同組合連合会 [金融機関コード 3016]

約3000個の文書箱の入出庫管理と棚卸しに「Convi.BASE」を活用し、作業の効率化と管理の厳格化を実現

Company Profile

長野県信用農業協同組合連合会
〒380-0826
長野市大字南長野北石堂町 1177 番地 3
代表電話 026-236-2058
http://www.naganoken-jabank.or.jp/kenshinren/

背　景

長野県信用農業協同組合連合会（以下、長野県信連）は、長野県内の農業協同組合の信用事業を統括する金融機関であり、長野県下の JA から資金を預かり、運用するのが事業の柱です。金融機関では、毎年、膨大な文書を作成しますが、その多くは一定期間の保存が法律等で義務づけられています。長野県信連でも、長年、文書をダンボール箱に入れて保存してきましたが、すべて手作業であったため、作業効率や管理の正確性の観点で、いくつか課題も抱えていました。それを解決したのが「Convi.BASE」です。文書管理を担当している総務部の皆様に、その経緯と詳細を伺いました。

右から 総務部 総務課 課長 小林雅幸 氏、総務部 総務課 副課長 伏見清彦 氏
総務部 総務課 松下千枝 氏

重要書類を保管した約3000個の文書箱管理が問題に

__「Convi.BASE」を導入されることになった背景をお聞かせください。

伏見氏　当会は、長野県JAバンクの県域機能を担う地域金融機関です。このため、保存期間の定められたさまざまな書類を厳重に保管することが求められています。保存が必要になった文書はダンボールの文書箱に入れ、中身を記した個票を箱に貼って倉庫に入庫します。その後は、保存期間の過ぎた箱から、順次、廃棄するという運用を行っています。現在、こうして保存されている文書箱は約3000個にのぼります。

しかし、すべて人力による運用だったため、今から約3年前、業務外の時間を使い約1ヶ月をかけて棚卸しを行い、保存した文書箱が本当にあるのかどうかを確認してみました。すると、入庫手続きはされているのに倉庫に入っていなかったり、本来あるべき場所に置かれていない箱が見つかったりしました。そこで、文書箱の入出庫をさらに厳格化するとともに、棚卸し作業そのものを効率化できる現物管理のソリューションを検討することになったのです。

__そこで選択されたのが、「Convi.BASE」だったのですね。

伏見氏　はい。いくつかの企業にシステムの提案をお願いしたのですが、現物管理の提案をしていただいたのは凸版印刷さんだけでした。そのシステムが、「Convi.BASE」だったのです。導入決定は 2012 年の 1 月で、2012 年 5 月から稼働を開始しました。

「Convi.BASE」の導入で入出庫の厳格化と棚卸しの作業効率化を実現

__具体的な活用方法を教えてください。まず、入出庫の場合はどのように活用されているのでしょうか。

松下氏　入庫の場合、各部署から総務に保存申請がきたら IC タグを作って各部署に渡します。各部署は、書類を入れた文書箱に IC タグと個票を貼り付け倉庫に持って行きます。同時に、総務の担当者がハンディ端末を持って倉庫に行き、IC タグを読み取って入庫されたことを確認します。出庫の場合は、ほとんどが廃棄のケースになります。まず、各部署から廃棄の申請がきたら、総務で「Convi.BASE」の該当データのステータスを「出庫待ち」にします。その後、地下倉庫から文書箱を出庫するときハンディ端末で箱の IC タグを読み取り、間違いがないか確認します。

__棚卸しについてはいかがでしょうか。

松下氏　総務の担当者 1、2 名が地下倉庫に行きハンディ端末で IC タグを読み取っていきますので、半日もあれば終了します。もしも、手作業で実施したら 1 週間はかかると思いますので作業は大幅に効率化できました。また、「Convi.BASE」導入後に規程を変更し、入出庫時の確認に加え、年に 2 回、棚卸しを実施することにしました。これにより、従来よりもはるかに厳格な管理が可能になりました。

運用に合わせてテーブルやビューをカスタマイズできる高い柔軟性

__「Convi.BASE」の使い勝手については、どう評価されますか。

伏見氏　テーブルやビューの変更が自由で、運用に合わせてカスタマイズできる点が便利ですね。たとえば、導入当初は日付項目を西暦にしたのですが和暦の方がわかりやすいという各部署担当者の要望を取り入れて和暦に変更しました。また、CSV データの入出力ができるのも助かっています。1 箱、2 箱なら問題ないのですが、年度末になると一度に 100 箱以上も入庫申請があることも珍しくありません。そのような場合は Excel 等で CSV データを作り、「Convi.BASE」にインポートしてデータを一括登録しています。

__各部署の皆さんの反応はいかがでしょうか。

伏見氏　各部署の手続きは、これまでと大きくは変わっていません。IC タグを貼らなければならない分、手続きは少し面倒になったかもしれません。しかし、「Convi.BASE」導入後は、総務側から各部署に対して廃棄予定の文書箱を提示できるようになりました。これまでは、各部署の担当者が、箱に貼ってある個票を 1 つ 1 つ確認して廃棄する箱を選別していましたので、その分、作業は楽になったと思います。誤廃棄のリスクも低下しましたので、担当者も安心して作業できるようになりました。

総務部 総務課 副課長 伏見清彦 氏

上）書類を保管している文書箱。倉庫には、同様の文書箱が約3000個、保管されている。

右上）文書箱に貼り付けられたICタグ。左側は文書箱の中身を記す個票

右）文書箱のICタグを読み取るハンディ端末。ハンディ端末は2台が導入されている。

「文書の電子化は進んでも、モノの管理はなくならない」と語る
総務部 総務課 課長 小林雅幸 氏

文書の電子化は進んでも、モノの管理はなくならない

__文書管理の厳格化という観点では「Convi.BASE」の評価はいかがでしょうか。

小林氏　文書の誤廃棄のリスクを確実に低減でき、手続き上のミスも減らせた意義は大きいと思います。もちろん、1 週間かかっていた棚卸しが半日で終わるようになりましたので、作業も大幅に楽になりました。コンプライアンス的にも業務の負担軽減という観点でも、導入した意義は十分あったと評価しています。

総務部 総務課 松下千枝 氏

__「Convi.BASE」の今後の活用についてお聞かせください。

小林氏　現在は、ペーパーレスをはじめとする電子化が進んでいます。金融機関でもそのトレンドは変わらないと思います。しかし、いくら電子化が進んだとしてもモノは必ず残ります。大きなモノから小さなモノまで含めると、かなりの量になりますので、それを総務部門で集中管理するとなると大きなマンパワーが必要です。その意味でも、モノの管理を省力化できる「Convi.BASE」には、これからも期待しています。今後は、文書管理だけでなく備品管理などでも活用できるのではないかと考えています。

__本日は貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

NETREQS
株式会社ネットレックス
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-11-10 PMO日本橋茅場町ビル8F
Tel. 03-5643-6743　https://www.netreqs.co.jp
Convi.BASE サイト▶https://convibase.jp

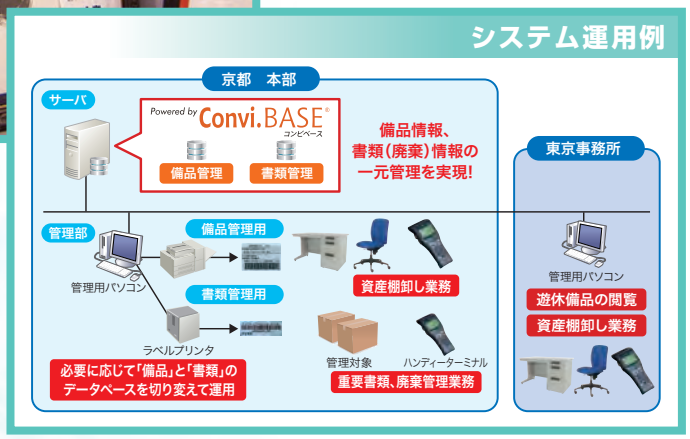
●会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
●本事例中に記載の所属・役職・社名および内容はインタビュー当時のものとなります。詳細はお問い合わせください。

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 様

京都本部 2F
漢検 漢字資料館

公益財団法人 日本漢字能力検定協会
財務経理部 施設管理課
田中 実 氏

背景は左が2012年の「今年の漢字」の1位となった「金」、右が2011年の「絆」



備品管理はもちろん! 個人情報の含まれた重要書類の廃棄管理にも「Convi.BASE」を活用!

「漢字検定(漢検)」や年末恒例の「今年の漢字」で知られる日本漢字能力検定協会。2013年4月1日から公益財団法人として新しいスタートを切り、日本語・漢字に関わる「普及啓発・支援活動」「調査・研究活動」「日本語能力育成活動」を3つの柱として活動しています。同協会は、京都本部、東京事務局の主に2カ所の拠点を持っていますが、備品類は、各拠点・部署ごとにそれぞれが管理していました。それをまとめて整理するために導入された「Convi.BASE」ですが、当初は想定していなかった書類の廃棄においても、重要な役割を担うこととなりました。システムの導入から運用までを担当した財務経理部 施設管理課 田中 実 氏に話を伺いました。

拠点・部署でバラバラだった備品の管理を統一するため「Convi.BASE」を導入

【編集部】「Convi.BASE」を導入されることになった背景をお聞かせください。

田中氏●当協会は、京都、東京の主に2箇所に拠点があります。また、京都の本部では、漢字に関する資料の収集・展示を行っている「漢検 漢字資料館」を運営しています。導入前は机、椅子などの備品は、各々の拠点の担当者が管理していましたが、協会として、備品だけでなく資料館の展示品や固定資産も含め全体で一元管理する必要があるということから、システムを探していました。そこで、当協会の情報システム部門に相談したところ「Convi.BASE」の紹介を受け、私達が求めているシステムはこれだと思い、私が開発元のネットレックスさんに直接連絡し、説明を受けて、導入することになったのです。システムは2011年の1月から稼働し、現在管理点数は約2,200点となっています。

――具体的には「Convi.BASE」をどのように活用されているのでしょうか。

田中氏●各部署で購入した備品すべてにバーコードが印刷されたシールを貼り、必要なデータを入力して管理しています。資産台帳上の管理番号があるものについては番号もあわせて印刷するようにしています。導入当初は、シールが貼れるものだけを管理していたのですが、現在は建物など現物にシールを貼れないものも管理しています。

備品に貼られるシール。
「漢検」のロゴもデザインされている。

裏面へ続く⇒

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 様

導入した「Convi.BASE」を個人情報の含まれた重要書類の廃棄管理にも活用

――備品管理だけでなく、重要書類の廃棄管理にも活用されていると伺いましたが。

田中氏●はい。もともと、Convi.BASEは備品管理を目的に導入しましたが、利用しているうちに、重要書類の廃棄管理にも活用できそうだと思いついたのです。当協会では、膨大な数の個人情報が含まれた書類を扱います。例えば、漢検の志願者数は年間220万～230万人に上りますので、その申込書類だけでも膨大な数になるのです。こうした書類は、一定期間保管することが義務づけられていますが、それを過ぎた書類は、確実に廃棄しなければなりません。

財務経理部 施設管理課 田中実 氏。
備品管理を目的に導入したConvi.BASEを重要書類の廃棄管理に活用することを思いついた。

――具体的には、どのように利用されているのでしょうか。

田中氏●当協会ではゴミを4種類に分けています。資源ゴミ、産業廃棄物、シュレッダーゴミ、日常ゴミです。このうち、個人情報などの含まれた重要書類がシュレッダーゴミとして扱われます。重要書類は各部署で管理し、廃棄する際は段ボール箱に入れて、セキュリティーの高い専用の倉庫に集めたあと、専門の廃棄業者に処分を依頼する流れになっています。そこで、シュレッダーゴミが出た際、Convi.BASEで予め発番し発行したラベルシールと書類の内容を確認・入力したうえで、必ず各部署の担当者に渡して、段ボール箱にシールを貼り、倉庫に置くという運用に変更しました。これにより、廃棄業者がゴミを受け取りにくる前日、倉庫に集まった段ボール箱のバーコードを読み取ると、廃棄予定の書類が確実に置かれているかどうか、簡単に確認できるようになりました。

職員の意識変化で遊休品の活用がすすみ、重要書類の廃棄もスムーズかつ確実に

――システム導入の効果はいかがだったでしょうか。備品管理と重要書類の廃棄管理、両面での効果をお聞かせください。

田中氏●以前は、資産台帳に載っているものについては、処分後に資産台帳に反映されるまで時間がかかったのですが、Convi.BASEを導入し、備品にシールを貼るようになってからは、スムーズな流れで処理がなされています。また、職員の意識も確実に変わり、すべての備品を管理部門がConvi.BASEを使って確認していますので、無駄を省くことが出来るようになりました。

――それは大きい変化ですね。重要書類の廃棄についてはいかがでしょうか。

田中氏●以前は廃棄業者に渡す際、一つひとつ数を数えていたので時間がかかりましたが、今は箱に貼ってあるシールのバーコードを専用の機械で読み取るので、大幅な時間の短縮ができるようになりました。このように、作業担当者の負担が軽減されたのが大きな効果です。また、重要書類に対する職員の意識が向上しました。

データベースの項目を見直して、さらに柔軟な備品管理を検討中

――「Convi.BASE」の今後の活用については、いかかでしょうか。

田中氏●我々の事業活動では、個人情報の保護が何よりも大切です。その中で、Convi.BASEが果たす役割は今まで以上に大きいと思います。引き続き、Convi.BASEを重要書類の廃棄管理に活用していく予定です。一方、備品管理については、管理項目を少し見直しているところです。Convi.BASEでは、データベースの項目をユーザーが自由に定義できますので、管理項目を少し見直すことで、さらに柔軟な備品管理が可能になるのではないかと思っています。

――今後の「Convi.BASE」に期待される機能はありますか。

田中氏●Windows XPからWindows 7への移行も完了しましたので、今のところ特に強い要望はありません。ただ、現在は、備品管理と書類廃棄のデータベースが2つに分かれているため、切り替えて利用しなければならないのが少々面倒です。最新のクラウド版「Convi.BASE」であれば、1つのデータベースで運用できるということですので、そのあたりは今後の検討課題になると思います。ネットレックスさんには、引き続き、いろいろとご相談に乗っていただければと思います。

京都本部では漢字検定のテキスト類の販売も行われている。

漢検 公益財団法人 日本漢字能力検定協会

●協会について
日本語・漢字に関する普及啓発・支援、日本語・漢字に関する調査及び研究、日本語・漢字に関する能力育成を3つの柱として、さまざまな事業を行っています。

●住所／連絡先
【本部】
〒600-8585
京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸町398
TEL：(075)352-8300
【東京事務局】
〒100-0004
東京都千代田区大手町2-1-1 大手町野村ビル
TEL：(03)5205-0333
【ホームページ】
http://www.kanken.or.jp/

NETREQS
株式会社ネットレックス
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-11-10 PMO日本橋茅場町ビル8F
Tel. 03-5643-6743 https://www.netreqs.co.jp

●会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
●本事例中に記載の所属・役職・社名および内容はインタビュー当時のものとなります。詳細はお問い合わせください。

2016.03

●お問い合せは

NTTコムウェア・ビリングソリューション株式会社

棚卸し・ライセンス・保守契約情報管理からRFIDによる移動情報の自動更新まで、成長するデータベースがもたらす可能性

（写真右から）
NTTコムウェア・ビリングソリューション株式会社　戸崎辰雄氏（情報システム本部生産支援・基盤担当）
幸村義一氏（情報システム本部生産支援・基盤担当）　河野真一氏（情報システム本部生産支援・基盤担当）
楢崎　崇氏（情報システム本部生産支援・基盤担当）
株式会社ネットレックス　ソリューションサービス部　サービスマネジメントグループ　荏原正義

Corporate Profile
NTT コムウェア・ビリングソリューション株式会社
東京都品川区西五反田3-7-10
代表電話:03-3779-9751
http://www.nttbgsol.com/

NTTコムウェア・ビリングソリューション株式会社は、NTTグループの一員として、請求書・明細書・DMなどの印刷発行から郵便支店等への配送、さらには電子帳票、各種情報提供、アウトソーシングサービスまで、トータルサービスを提供しています。世界最大級・最新鋭の設備を多数配備した6カ所の印刷工場を始め、全国9カ所の拠点で生産設備、OA機器を集中管理するために選ばれたのが「Convi.BASE」です。今回は、設備管理を担当する情報システム本部の皆様にお話を伺いました。

手軽にバーコードラベルを印刷、所在管理を容易に!

Q.「Convi.BASE」を導入された意図は?

幸村氏: 全国の生産拠点で使用するサーバーを始め、IT、OA機器などの管理が目的です。パソコンの所在が直ぐには解らなかったり、棚卸しに労力がかかりすぎるのを改善する必要がありました。情報システム本部の中でも物品購入・設置、ネットワークの管理は生産管理基盤担当の仕事で、備品は情報企画という別の担当が管理します。情報企画からパソコンの所在を尋ねられても、パソコンの設置、移動などが多すぎるために生産管理基盤担当の誰も覚えていない、答えるのに時間がかかるということが繰り返されていました。

Q.以前はどうやって管理されていたのでしょう。

戸崎氏: それぞれの機器に番号ラベルを貼り、エクセルで一覧表を作って管理していました。しかし、件数が多いですし、番号と表の突合せや更新にも手間がかかり、結果的に所在管理が曖昧になるという問題がありました。「Convi.BASE」を導入したばかりですが、バーコードをリーダーで読み取るだけで済みますから、棚卸しについての物理的負担が軽減されるだけでなく、気分的にも楽になったと感じます。

Q.競合製品の中から「Convi.BASE」を選択された理由は?

幸村氏: 財務・経理部門から固定資産管理のソフト探しを頼まれ、検討した中で「Convi.BASE」がバーコード管理など必要な条件を備えていました。全社的に導入している「テプラ」でラベルが出せて、小さい機器にも貼れるコンパクトなラベルレイアウトが実現できることから、私たち情報システム本部でも機器の管理用に導入することにしました。クライアント/サーバーシステムなので、拠点ごとに業務処理ができることや、運用面の相談、個別の要望に対する営業の方の対応が迅速で適切だったことも決め手の1つです。

固定資産管理にも「Convi.BASE」を導入し省力化

Q.固定資産とIT資産は別のデータベースで管理しているのですか?

戸崎氏: 固定資産は経理部門が管理し、私たち情報システム本部は幅広くIT資産を管理しています。管理項目もまったく違うので、どちらも「Convi.BASE」で運用していますがそれぞれ独立しています。固定資産は年1回の棚卸しだけですが、私たちは修理のための引き上げや、拠点間の機器移動など、「何が、何処に、どのような状態で」存在しているかを「見える化」するために頻繁に活用しています。

Q.運用までの流れはいかがでしたか?

幸村氏:固定資産管理は「Convi.BASE」を導入して3年くらい経ちますが、かなり楽になったという声があるようです。今は拠点にハンディーターミナルが配備され、読み取ったデータを吸い上げればよいので本社でもすぐに現況の確認が可能となり、省力化できています。

戸崎氏:IT、OA機器管理の方は、私たちが東日本大震災による拠点の被害対応に追われたためにデータベースの基本デザインを決められず、大幅にスケジュールが遅れました。2012年の8月から拠点ごとに登録を開始し、やり方などを模索しながら12月までで3カ所の拠点で登録が終わりました。

幸村氏:各拠点に情報システム本部の私たちが出向き、IT、OA機器をチェックしながらラベルを発行し、貼っています。運用としては、棚卸しだけでなくA拠点からB拠点への移動の際にはバーコードを読み込んで移動を記録するようなワークフローが確立しつつあります。

様々な拡張性を秘めたパッケージ

Q.ソフトウェアのライセンス管理にも利用されているそうですね?

戸崎氏:デザイン担当がMacで使用するイラストレーター、フォトショップなどのソフトウェアのライセンスを確実に管理するために、各パソコンにインストールされているソフトウェアのライセンス番号をパソコンと結びつけて管理するようにしました。

ネットレックス:「Convi.BASE」のオプションとしてライセンス管理機能があります。それを利用してソフトウェアのライセンス情報とハードウェアの情報を紐付けて管理する計画を進めていただいております。

Q.「こんなことができたら」というご要望は?

楢崎氏:項目ごとにアクセス権を設定できたら良いと思います。今後運用していく上で、いろいろな立場の人がデータベースを利用できるようにしたいのです。

ネットレックス:先日、追加でご導入させて頂いたWebオプションを利用して頂ければ可能となります。

河野氏:ファイルサイズが大きい画像を登録した時に動きが重くなったり、本社で登録した画像をクライアント側のノートで表示させる時にスクロールがスームズにいかない時があるようです。

ネットレックス:「Convi.BASE」の環境設定画面で登録時の画像サイズの調整、サムネイル自動生成を指定する機能がありますので、こちらの設定を後程確認してみましょう。

戸崎氏:修理・移動・ストックなどのステータスを常に把握するために利用していますが、移動を確実に把握するためにはRFIDが使えるといいですね。

ネットレックス:RFIDオプションを追加して頂ければICタグでの運用も可能となります。データセンターなどサーバー管理での実績もございます。棚卸しは正面から一括で読取りが可能で、特定の機器を探索することもできます。ケーブルを誤って抜いてしまったりするような事故防止など物理的なセキュリティ面でも役に立っています。

幸村氏:予算の問題もありますが、将来的には導入したいですね。また、まだ手が回らないのですが、ハードウェアの所在管理に加えて、個々にどのような保守契約がついているのかを管理したいと考えています。保守は管理系統が別なので現在の「Convi.BASE」の他に、別のデータベースをリンクさせて管理するのが希望です。

テーブルリンクやアクセス権設定で幅広く活用

Q.「Convi.BASE」の拡張にはどんな方法がありますか?

ネットレックス:「Convi.BASE Enterprise Edition(エンタープライズエディション)」をご利用いただければ2つのテーブルをリンクさせることが可能です。テーブルからある条件に一致するものを抽出してビューを作ったりすることもできますので幸村様のご希望も実現できると思います。

戸崎氏:資産管理にはどうしてもそれに付随する情報を連携させる必要がでてきます。先ほど話題に出たライセンス管理に伴ってパスワードも管理したいと考えています。パスワード管理となれば、誰にでも見えてはいけないので、やはりアクセス権設定が必要です。さらに進めて、「Convi.BASE」を中心にあらゆる資産と付随情報が管理できるのではないかなと期待しています。

ネットレックス:「Convi.BASE Enterprise Edition(エンタープライズエディション)」であれば管理項目は無制限となりますので、将来的には移行をお考えいただくのもよいかと思います。スマートフォン対応も現在計画しています。

幸村氏:今はパソコンとバーコードリーダの2つで管理していますが、スマホ対応になればバーコードリーダがついていますからスマートフォン1台でできるということになりますね。

戸崎氏:まだ、使い始めて日が浅いので知らないことが多いのですが、思っていた以上に「Convi.BASE」で実現できることか多いことがわかりました。活用すればさらに効率的な管理を実現できそうです。

ネットレックス:スマートフォンに関しては、アクセス権の問題や棚卸し業務でどこまで活用できるか。など詳細を検討中です。いずれにしても、従来の資産管理、棚卸しだけのシステムではなく、今後は様々な目的、用途でお使いいただけることを目指して製品の強化を進めていきたいと考えております。本日は貴重なご意見を頂きありがとうございました。

NETREQS
株式会社ネットレックス
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-11-10
PMO日本橋茅場町ビル8F
Tel. 03-5643-6743 https://www.netreqs.co.jp
●会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
●本事例中に記載の所属・役職・社名および内容はインタビュー当時のものとなります。詳細はお問い合わせください。
2016.03

アステラス製薬株式会社

「先端・信頼の医薬で、世界の人々の健康に貢献する」ことを経営理念に掲げ、研究開発型のグローバル製薬企業として積極的に事業展開するアステラス製薬。17,000名以上の社員に支えられ、有効性と安全性の高い医薬品で世界の人々の健康に貢献し、企業価値を持続的に向上させることを目指します。

Corporate Profile

astellas
Leading Light for Life

アステラス製薬株式会社
東京都中央区日本橋本町2-3-11
代表電話:03-3244-3000
http://www.astellas.com/jp/

グループ全体の資産を正確・スピーディに一元管理 棚卸しの所要時間を1/3に圧縮

（写真左から）
アステラスビジネスサービス株式会社 企画部設備担当部長 エグゼクティブマイスター　有場 宗人 様
株式会社ネットレックス ソリューションサービス部 サービスマネジメントグループリーダー　鈴木 洋行
株式会社ネットレックス ソリューション営業部 営業課長　清水 秀樹

アステラスグループ全国の拠点、工場、研究施設で管理対象となる固定資産は9万点以上。「Convi.BASE」導入1年目で、紙ベースの台帳管理に費やされてきた膨大な時間とコストの圧縮、見落としや転記ミス防止による精度向上に加え、遊休資産の見える化、業務関連手続きのデータベース化など、予想以上の成果が見えてきました。グループ全体の人事・総務・購買・設備・研究支援などの実務を支える「アステラスビジネスサービス」の企画部設備担当部長・有場氏にお話を伺いました。

クライアントの要望を的確に実現

Q.「Convi.BASE」導入の意図は?

有場氏:管理すべき資産は建物、什器、研究設備から植栽まで多岐に亘ります。監査をクリアできる管理レベルを維持するために第三者立会いの棚卸しを義務付けてきました。本来であれば実際の使用者に対して第三者である私たち「アステラスビジネスサービス(以下ABS)」が全て立会う事ができればいいのですが、棚卸期間が1ヶ月ほどしかなく、ABSだけのマンパワーでは対応できない為、第三者となりうる研究員の方々に立会いをお願いしていました。このような対応で1事業所あたり数千時間の人的、時間的コストを費やして毎年棚卸しをしてきたわけです。各事業所の現場担当者（主に研究員）は立会い前に事前チェックをしますから実際には二度手間になります。まとめるABS事務局もまた約9万件分の台帳のページをめくって確認しますが、どうしても追求しきれない不明点や見落としが残ります。この改善を目指して「Convi.BASE」を導入、運用を開始しました。

Q.競合製品の中から「Convi.BASE」を選択された理由は?

有場氏:導入コストの低さと、カスタマイズなどの要望に迅速・柔軟に対応してもらえたことです。ほとんどの要望が実現されています。サポートのレスポンスがよく、充実しているのもよいですね。

ネットレックス:クライアント様への導入担当者や日常接する営業担当者がその過程で得た情報もサポートチームにフィードバックし、お客さまごとに的確な対応が取れるよう努力しています。必要に応じて技術チームも加わって対応し、その情報も以後のサポートに活かすようにしています。お客さまごとのカスタマイズなどの情報はデータベース化して、関係者間で共有しています。いつどのお客さまからお問い合わせがあっても対応できる体制を整えています。

Q.どのようなカスタマイズをされたのでしょうか?

ネットレックス:アステラス様のご要望による最大のカスタマイズはラベルのバーコードを基本仕様の1次元バーコードからQRコードにしたことです。これは初めての試みでした。

Q.管理ラベルのQRコード化を希望された理由は?

有場氏:QRコードならテキスト情報を全角で1,000文字程度は入れられるため、さまざまな補足情報も付けられます。また、基本仕様では作業にあたり担当者が一覧表示から自分の名前を選ばなくてはなりませんが、QRコードにすることで担当者名も各自のIDカードをスキャンするだけになり、位置情報も各部屋につけられたQRコードを読めばよいので、誰が、どこで棚卸しをしたかが確実に管理でき、ヒューマンエラーも少ないと思います。

棚卸しのスピード化と本来業務の充実

Q.社内の他のシステムとの連携は?

有場氏:会計には他社の固定資産管理システムを導入していますが、そのデータを取り込めるよう「Convi.BASE」をカスタマイズし、スムーズに使用しています。棚卸し結果の会計システムへの反映には規定上申請が必要ですがその書類作成も自動化していただき、事務処理もスピードアップしました。

Q.運用開始後約1年ですが経過はいかがでしょうか?

有場氏:2011年8月に運用開始し、約3ヶ月でグループ全体の固定資産の約半分にあたる45,000件を登録しました。2年目の今年で全資産約90,000件の登録完了を予定しています。全体では棚卸し業務にかかる時間を1/3に圧縮するのが目標ですが、担当者が以前37時間要していたところ、「Convi.BASE」導入後、10時間に短縮された実績があり、十分達成可能と考えています。

Q.社員の方の「Convi.BASE」への評価は?

有場氏:成果はこれからですが、研究開発施設なども多く、棚卸しにかかる手間と時間が大幅に軽減され、本来業務へ集中ができると評価を受けることができるものと期待しています。第三者の立会いも不要となり、スキャナでQRコードを読むだけのペーパーレスですむわけですから。

柔軟性を活かして幅広く活用

Q.棚卸し以外の業務にも利用されているそうですが?

有場氏:例えば冷蔵庫など、少額資産として処理される備品管理にも利用しています。所在のほかに現況の要・不要のフラグがつけられるので資産の有効活用に役立ちます。グループ全体の備品を通し番号で管理しているので自動発番できるのが助かります。また、業務関連手続きのデータベースにも使用しています。「法的マトリックス」と呼んでいますが、会社運営上必要な諸手続きをまとめたものです。例えば設備などを新設する場合、必要な届出の期日、方法、内容などを誰でも一目でわかるようにまとめています。まだトライアル段階ですが、「Convi.BASE」上でウェブ環境を使用して展開しています。経験の浅い人でも必要な諸手続きを知ることができ、引継ぎもスムーズになる事を期待しています。他にもエクセルで台帳管理してるものをいくつか「Convi.BASE」に置き換えたいと考えています。

Q.「Convi.BASE」に今後期待されることは?

有場氏:Windows7への対応と、処理のさらなるスピードアップでしょうか。現実にはWindows7上で使えていますが、Windows側から無用なエラーメッセージが表示されたりするのが気になります。処理時間は階層が深いというアステラス特有の管理体系によるようですが、速くなればありがたいですね。

ネットレックス:「Convi.BASE」は2005年にリリースし、お客様のご要望をフィードバックして改善を重ねてきた製品です。今後もこうしたご意見を反映し、よりよい製品作りにつなげていきたいと思います。

NETREQS
株式会社ネットレックス
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-11-10 PMO日本橋茅場町ビル8F
Tel. 03-5643-6743 https://www.netreqs.co.jp

●会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
●本事例中に記載の所属・役職・社名および内容はインタビュー当時のものとなります。詳細はお問い合わせください。

2016.03

■お問い合わせは

今回の訪問クライアント様

株式会社 富士通九州システムズ

＜写真左から＞
産業ソリューション本部 産業第二ソリューション部 ERP ソリューション 会計人給グループリーダー　稲毛仁氏
産業ソリューション本部 産業第二ソリューション部長　井島博昭氏
事業推進本部 情報化推進部長　藤田修氏
産業ソリューション本部 産業第二ソリューション部　力武淳一郎氏

株式会社富士通九州システムズでは、様々な業種・業務・技術分野におけるフィールドイノベーション、ソフトウェアの開発、販売、サポート、コンサルティング、海外ビジネスを展開しています。
具体的には、官公庁・自治体、医療、PLM、解析、AGRI&FOOD、ホテル、輸配送、ライフ・サイエンスといった業種分野や、文書管理、生産管理、販売管理、会計、教育といった業務分野など幅広い事業分野を保有しており、
これからも、知恵とITをフルに活用してお客様の経営課題を一緒に考えて解決し、お客様のビジネス改革や現場変革のお手伝いをする「イノベーション・パートナー」をめざしていきます。

CORPORATE PROFILE ＜会社概要＞

本　　社：福岡
〒814-8589
福岡市早良区百道浜2-2-1（富士通九州R&Dセンター）

東比恵オフィス
〒812-0007
福岡県福岡市博多区東比恵3丁目1番2号（東比恵ビジネスセンター）
電話：092-707-5640（代） Fax：092-411-3162

事業所／熊本、大分、佐賀、長崎、宮崎、東京、大阪
オフィス／関東地区（蒲田、横浜）、名古屋、熊本（紺屋今町）
海外子会社／ポーランド
http://jp.fujitsu.com/kyushu/

3社合併による様々な資産管理の形態をConvi.BASEで統一！
現物管理の実践で「資産の見える化」、「戦略的な資産管理」を目指す！

Owner's INTERVIEW インタビュー

2009年に3社が合併して九州地域のソフトウェア開発業界最大手となった富士通九州システムズ。各社が保有していた最新のテクノロジーとさまざまな業種・業務ノウハウが一社に集結し、より高度で広範囲なソリューションの提供、サポートが可能となった。また、今年は100%出資子会社として、㈱富士通九州システムサービスを設立し、より密着した様々なサービスの提供やサポートを地域に根ざした形で企業活動を展開。一方、活躍のステージは九州だけに留まらず東京、横浜、名古屋、大阪など日本国内はもとより、海外子会社（FQSポーランド）やアジア企業との連携など事業活動もグローバルな形で行っている。九州だけでも拠点を8ヶ所に構え、パソコンの保有台数は4500台を超える。その資産管理方法、IT機器特有のセキュリティ面での問題、会社合併による資産統合の課題など、その諸々の課題解決に導くConvi.BASEの導入、活用方法、今後の展開について伺った。

『Convi.BASE』のような現物管理システムの導入検討をされることになった経緯をお聞かせください。

合併当初は3つの会社の資産が一つになり、3社それぞれの資産計上の方法も異なれば、管理単位（計上単位）も違いました。資産の中でも特に多いパソコン、IT機器については、「どこに何台あって、どのような使われ方をしているのか？」が見えない状況で、それを整理していくだけでも大変な作業でした。当社は、事業部や部署の分割、統合など組織変更が多いので、全国13ヶ所の事業所間での機器の移動も多いと思います。人と一緒にパソコンなどIT機器が動くケースや、プロジェクトが立ち上がり長期出張などによる機器の移動や新規購入のケースなど様々です。また、お客様からお預かりした機器の管理や、逆にお客様の事務所へ出向する場合の持込などもあります。パソコン、IT機器については情報セキュリティの面でも「使用場所、使用状況、OS、ソフトなど」機器の状態を把握しなければいけないという点が管理を強化する上で重要なポイントでした。

『Convi.BASE』を導入される以前はどのような管理をされていたのですか。

以前は、資産の管理台帳をエクセルで作成し、管理状況をWEBで共有していました。実際の資産、物品がどれだけあるのかは一次的に把握できていましたが、これを人為的に維持することは非常に困難でした。特にパソコンなどIT機器については管理NO.を付けて管理していましたが、本当に使えるパソコンが何台あるのかまでは帳簿上では見えてきません。ソフトウェアの更新ライセンスも、各部門から申請された数をそのまま購入していましたので、それが本当に必要な数なのかどうかまでは把握できない状況でした。また、管理台帳も複数に分かれていて、固定資産台帳、リース資産台帳、さらにはセキュリティ上の観点から部外のものであっても現物管理を行わなければいけないなど、これらの資産を一元管理することが必要でした。

『Convi.BASE』を選択された理由をお聞かせください。

資産を管理、棚卸しを支援するパッケージソフトは、世の中にいくつもありません。実は富士通でも台帳管理や現物管理するシステムはありますが、Convi.BASEは、コストの面、また汎用性、柔軟性の面でも大変利用しやすく、分かりやすいソフトウェアです。デモを見たときに自分たちがやりたいことを本当に実現できるのはConvi.BASEしかないと実感できたことが最大の理由です。

裏面へ続きます→

株式会社 富士通九州システムズ 様

新規ビジネスも視野に入れて『Convi.BASE』を導入。内部業務の効率化だけにとどまらない活用を計画中。

稲毛仁氏

井島博昭氏

藤田修氏

力武淳一郎氏

今回、『Convi.BASE』導入によってどのような効果を期待されているかお聞かせ下さい。

資産管理の目的としては、「資産の見える化」を進め、社内で情報共有するところまでがConvi.BASE活用の最初のポイントだと考えています。具体的には、資産情報を統合し整理したことから資産管理の何が問題で、今後どう改善していくかを見える化することです。遊休資産の活用、投資コストの削減、社員意識改革、コンプライアンス強化推進など、現物管理からスタートし、次のステップにどう進めるかをねらっています。

『Convi.BASE』導入や資産の現物管理を進めていく際にご苦労された点や工夫された点、現在までのご感想などをお聞かせ下さい。

経理上の資産情報は管理項目が多く、当初Convi.BASE側の項目数50項目に合わせられるかどうか危惧していました。“お金”の管理ではなく“モノ”の管理という観点で、本当に必要な管理項目、運用可能な管理項目を決める基準、定義付けしていくプロセスで苦労しました。例えば、台帳を統合することにより固定資産とリース資産の区分を整理し項目化したり、1週間以上電源を入れていない稼働率が低いパソコンを遊休品とする基準を決めるなど、現物管理を進める上で必要な管理方針の見直し、策定に苦労したと言えます。システムをより上手く活用するために、物品移動する際の申請書や、その処理はどこで行い、どのタイミングでConvi.BASEへ反映させるかなど、社内業務フローの整備も行いました。
その後のステップとして実施した物品へのラベル貼付作業は、大変ではありましたが、全部門で協力し合って行いましたので助かりました。このような導入作業を進めていく場合、社内全体で協力してもらうことも重要だと思います。ラベル貼付作業は、結果的に現物を確認する作業とも言えますので、遊休資産や不要品を洗い出すことができました。眠ったままになっていたパソコンが思ったより多かったので、これらを持ち出し用のパソコンとして再活用しています。

『Convi.BASE』を使用した現在までの取り組み状況と今後のご計画をお聞かせください。

まずConvi.BASEを導入したことが資産管理を強化する大きなきっかけになったといえます。現状としては、資産現物のラベル貼付、棚卸しが終了し、統合された資産情報の登録が完了しています。今後は、社内公開し、社員全員での情報共有を進め、「資産の見える化」から、さまざまな改善点を発見し運用していけるものと期待しています。
今回、実際に利用中のパソコンの台数が把握できましたので、本当に必要なソフトウェアライセンスの数もわかるようになりました。部門単位で購入していたライセンスも、全社で一括購入することが可能となり、本当に必要な数が管理できていますので、コスト削減にも繋がると考えています。
ただ、このような管理を継続していく為には、利用状況を定期的に確認する必要がありますので、現場への業務負荷を増やしてしまうという懸念点が存在します。今後は管理情報の入力をできるだけ省くため、Convi.BASEのオプション(ITConvi.)を活用し、例えば、ネットワークに接続されている機器についてはインベントリ情報から状況を取得するなど、なるべく手間をかけずに状況把握できる方法を探っていきたいと考えています。来年からはバーコードでの棚卸となりますので、現物確認の作業もかなり効率化されることを期待しています。また、将来的には、ICタグの利用なども検討していきたいと考えています。

最後になりますが、当社では新しいビジネス、ソリューションとして、資産管理を請け負うサービスを考えています。まず自社でモデル化するところから始め、そのツールとしてConvi.BASEを導入しました。今後は、簡単に資産管理ができるという点や、当社の導入効果も含めてお客様にご覧頂きたいと思っています。更には資産管理に関する業務を業種業態に合わせてテンプレート化し、デモンストレーションなども行っていきたいと考えています。

本日は、お忙しいなかおつきあい頂き誠にありがとうございました。

株式会社ネットレックス
ソリューション営業部
営業課長
清水秀樹

NETREQS
株式会社ネットレックス
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-11-10 PMO日本橋茅場町ビル8F
Tel. 03-5643-6743 https://www.netreqs.co.jp

●会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
●本事例中に記載の所属・役職・社名および内容はインタビュー当時のものとなります。詳細はお問い合わせください。

2016.03

●お問い合せは

NETREQS

ネットレックス
ユーザー事例

リゾートトラスト株式会社

棚卸し業務の負担が1/4以下に
現場の工夫で広がる「Convi.BASE」の可能性

快適さだけではなく、セキュリティやプライバシーにも最大限考慮された会員制リゾートホテルを核として、ビジネスホテル、ゴルフ場等を展開し、豊かな人生を歩むための様々なサービスを提供するリゾートトラスト株式会社。

30を超える拠点にある多数の資産を管理するため、年1回の棚卸しを行っていたが、関連業務を含めて完了までに半年以上を費やしていた。そこで導入したのが「Convi.BASE」。Web公開といった機能や細かな現場の工夫で、業務効率化を成功させる秘訣を同社のフラッグシップ施設である「東京ベイコート倶楽部　ホテル&スパリゾート」で伺った。

Interview

前列右から
リゾートトラスト株式会社
経理部　資産管理課
課長　加藤 義勝 氏
東京ベイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート
業務部長　川村 勝洋 氏

後列右から
株式会社ネットレックス
ソリューション営業部
プロダクト&サービス企画グループ
部長　須藤 悟
取締役　ソリューション営業部長
森本 哲行
ソリューションサービス部
サービスマネジメントグループ
荏原 正義

新拠点オープン後も人手は増やさず負担を75パーセント以上カット

―「Convi.BASE」を導入後、改善されたと感じられるのはどういった点ですか?

川村氏■　現場サイドでは資産リストのWeb公開によって、いつでも現場のパソコンから、資産の詳細な情報を確認できるようになり、大きな業務改善に繋がっています。資産導入時の担当者が異動するなどしても、特別なソフトウェアをインストールすることなく、Webで必要な情報を確認できるため、本社に資産の問い合わせをすることが大きく減りました。それに併せて、資産に関する情報に触れる機会が増えたため、資産に対する現場の意識が高まりました。

加藤氏■　本社では、固定資産台帳のペーパーレス化ができたことと、償却資産台帳と固定資産台帳の差異が解消し、棚卸し業務に集中できるようになったことが挙げられます。棚卸し業務に対する負担は、1/4～1/5に減ったと感じています。

―棚卸し業務の負担が1/4～1/5になったというのは大きな業務の効率化ですね。棚卸し業務にかかる期間も短くなったのでしょうか?

加藤氏■　「Convi.BASE」導入前は、年1回の棚卸しと、関連する業務を含め半年以上の期間を要していましたが、導入後は大きく短縮されましたね。近年は毎年のように新規拠点のオープンがあり、資産数は千件単位で増えていますが、棚卸し業務に携わる人員は導入以前と同じ人数で十分こなすことができています。

――棚卸しに関する業務が半年以上かかっていた事にはどういった問題があったのでしょうか?

加藤氏■　これは「Convi.BASE」導入前の棚卸しのフローに関係しているのですが、棚卸しの際に本社ではまず、償却資産台帳から固定資産現物管理用として棚卸しチェック用のリストをExcelで作成し、これを各現場で目視によって確認、そのデータを本社で固定資産台帳に反映させるという方法をとっていました。手作業ですのでミスが目立ったことと、拠点数が30を超え、資産数がかなりの数に上る事から、償却資産台帳と固定資産台帳の差異が発生していました。この差異の整合性の検証にかなりの時間を割いていました。

日本初のWeb公開システム誕生

―では、現在の「Convi.BASE」を使った棚卸しで、この問題は解決したのでしょうか?

加藤氏■　はい。償却資産管理のシステムと固定資産管理としての「Convi.BASE」をリンクしたことによって、2つのシステム間でデータの同期が取れるようになりました。棚卸し自体に関しても、チェック用リストに現物の画像掲載とバーコードシールの貼付によりヒューマンエラーが減りました。

須藤　「Convi.BASE」は本来、独立したパッケージなのですが、今回リゾートトラスト様の場合、ちょうど導入時に償却資産管理システム更新のご要望があり、2つのシステムをリンクさせた形でご提案し、導入をして頂くことになりました。

―Web公開システムも初めての試みだったと伺いましたが?

荏原　以前から社内で開発したいという声は上がっていましたが、リゾートトラスト様から開発のご要望を頂いたのを機に本格的に開発をしました。お陰様で現在、Web公開機能は「Convi.BASE」のオプションとして皆様に提供させて頂いております。

加藤氏■　導入する段階では、まだ日本にはなかった機能で、駄目で元々といった気持ちで共同開発をお願いしたのですが、実際に開発して頂くことができて非常に満足しています。

ナンバーワンではない、オンリーワンのパッケージ

―初めての試みもあったようですが、導入はスムーズにいきましたか?

加藤氏■　2006年の12月にデモをして頂き、社内選考などを経て、2007年の4月に実際のスタートを切ったという形です。納品して頂いたのが2007年11月で、データ移行で多少苦労がありましたが、比較的スムーズに導入できたと思います。

―社内選考では他社の製品も比較されたのですか?

加藤氏■　当初、14社にお声がけをして、最終選考に残ったのは5社でした。

―「Convi.BASE」を選んだ決め手はどういった点だったのしょうか?

加藤氏■　ナンバーワンというよりオンリーワンのパッケージでした。Web公開に対応して頂けたのはネットレックスさんだけでしたし、私達の求めていることが実現できるのは「Convi.BASE」だけでしたね。また、これは選定段階の話なのですが、ネットレックスさんのWebサイトに「資料室」というページがありまして、そこで以前取られたアンケートの調査結果を拝見することができました。これを拝見して、しっかりとユーザーの声を取り入れている企業という安心感を得ると共に、他社も同じ悩みを抱えているということがわかりました。

森本　このアンケートは「Convi.BASE」を開発するに当たって、ユーザーの皆様の声に即したパッケージを作るために、様々な会社にご協力を頂き、棚卸し業務に関する生の声を頂戴した物になります。皆様のお役に立つこともあるかと思い、弊社Webサイトで公開しております。

現場の工夫と両社の連携で広がる棚卸しから業務効率化

―最後に「Convi.BASE」を活用するコツがあればお聞かせ頂きたいと思います。

加藤氏■　ネットレックスさんは柔軟な対応をして頂けるので、困ったことがあれば、まず相談してみることでしょうか。「Convi.BASE」を導入して最初の棚卸しは、「あった」資産をチェックするという本来の方法で行ったのですが、バーコードシールを全ての資産に貼付できない状況からチェック用リストにバーコードを印字してハンディターミナルで「あった」資産コードを入力する方法で行いました。ただ、入力作業に時間を要したため次の年からは、ネットレックスさんにお願いして、チェックして「なかった」資産を入力すればいいようにカスタマイズして頂きました。

川村氏■　これはコツというより現場での工夫なのですが、私どもは会員制ホテルなどを運営している関係で、お客様の目につく所には棚卸し用のバーコードシールを貼ることが難しいという問題があります。そこで最近では、部屋の収納スペースなどにバーコードシールをまとめて貼ったシートを置くようにしています。また、データベースに登録する画像も、編集をしてコメントを追加したり、コメントを書いたホワイトボードと一緒に撮るといった工夫で、棚卸しの際にもずいぶん判りやすくなりました。

森本　現場での工夫でより使いやすくなったという声を他の企業様からも頂戴しています。また、我々といたしましても、パッケージをただ、導入時の状態で利用して頂くだけではなく、お客様から積極的にご提案を頂き、その声をフィードバックしていければと思っております。

リゾートトラスト株式会社

東京ベイコート倶楽部

当社グループは、世界的な景気減速や様々な環境の変化を事業の強化を行うまたとないチャンスと捉え、徹底的に事業再構築を行い、外部環境に左右されない強固な収益構造構築に取り組んで参ります。

これからの時代、社会の高齢化が進み、人々の余暇ニーズが高まるにつれ、私たちが提供しているホスピタリティ事業へのニーズはますます増していくと考えております。

私たちは、業界のリーディングカンパニーとして、より多くの皆様に最上のホスピタリティを提供する「エクセレント・ホスピタリティ・グループ」となることを目指していきます。

リゾートトラスト株式会社
〒460-8490
名古屋市中区東桜2-18-31
TEL 052-933-6000(大代) http://www.resorttrust.co.jp/

NETREQS
株式会社ネットレックス
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-11-10 PMO日本橋茅場町ビル8F
Tel. 03-5643-6743　https://www.netreqs.co.jp

●会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
●本事例中に記載の所属・役職・社名および内容はインタビュー当時のものとなります。詳細はお問い合わせください。

NETREQS
ネットレックスユーザー事例

ITエンジニアリング株式会社

資産の棚卸し業務が気楽で簡単に、社内貸出管理にも利用
業務効率化に繋がるパッケージ

株式会社ネットレックス
ソリューション営業部
営業課長　佐藤 宰

ITエンジニアリング株式会社
IT企画運用室
右から　大野 純 様
室長　長田 隆次 様
機器担当　三田 美代 様

Interview

バーコードによる資産棚卸し支援ソフトウェア
資産棚卸し支援パッケージ
Powered by Convi.BASE™ コンビベース

ITエンジニアリング株式会社は、プロジェクトマネジメントや装置製造業向けの生産管理システムなどの開発を得意とするSI企業。同社の特徴は、受注業務の規模や内容に応じて、ダイナミック変化するプロジェクト組織による運営だ。そのため、IT機器の管理・運営についても、プロジェクト要求に応じた迅速で、的確な対応が必要となる。年間数百件にも上るプロジェクトへの対応を、わずか2名の担当者でこなす同社が、迅速で的確な資産管理のために選択したのが、「Convi.BASE」だった。
現物管理・棚卸し業務を効率化した「Convi.BASE」の現場での活躍を伺った。

棚卸しに傾注したパッケージ「Convi.BASE」

――「Convi.BASE」導入以前はどういった形で棚卸し業務をされていたのですか?

三田氏●　社内のネットワーク担当の人間がNotesで作ったシステムを使って管理し、棚卸しの際にはExcelのシートに落として資産データを印刷して、ひとつひとつ目で確かめていくという形で行っていました。また、利用者台帳も必要でしたのでNotesとは別にAccessでシステムを作り、そちらでも物品管理をしていました。

――その方法での問題点は何でしたか?

三田氏●　目で追っていくので、どうしてもヒューマンエラーが起きてしまい、精度が悪かったですね。さらに、弊社ではプロジェクト毎にパソコンなどを流用しますので、実際の利用者・場所が変わりやすく、棚卸しをした際、不明な機器が出てもデータベース上で履歴を参照出来ないため、「いつ・どこで」不明になったか分からなくなって、無駄に時間を使うことがありました。さらに、普段の業務でも新しく入った機器などをデータベースに登録する際、一点ずつ手入力しなければいけない点は苦痛でした。管理システムの都合上、一人の人間がすべて作業しなければならず負荷分散が出来ない点も問題でした。

――では、「Convi.BASE」を導入されるきっかけは何でしたか?

三田氏●　こういった作業を簡便化してくれるツールが無いかと企業向けIT製品の検索サイトで見つけて資料請求させていただいたのがきっかけですね。

――その際、他社の製品と比較はされましたか?

三田氏●　何点か調べましたが、ライセンスやインベントリの管理といった所に重点が置かれていているものが殆どで「現物管理」「棚卸し」をピンポイントにサポートしてくれるツールは「Convi.BASE」だけでした。棚卸しという作業に非常に傾注されていると感じました。

佐藤●　「Convi.BASE」をパッケージ化する前から弊社は、ファシリティマネジメントや資産管理の領域で、様々な企業の棚卸し業務を含めたシステム開発を手がけてきたノウハウがございました。また、「Convi.BASE」としてパッケージ化してからも、ご利用頂いているお客様からの声を機能として製品に反映させる形でバージョンアップを重ねてまいりましたので、現場に即したパッケージになっていると思います。

半日の棚卸し業務が30分で物の流れを掴みやすいので貸出管理としても活用

――では導入後、実際に利用されてみていかがでしたか?

三田氏●　頂いた資料の導入事例が本当に可能なのかと期待半分でしたが、実際に導入してみると驚くほど棚卸し業務が簡便に出来るようになりました。台帳を管理するという堅苦しさが無くて、不明なことがあれば、部署単位でもバーコードを読み取るだけで、その都度調べることが出来るようになったのは大きな変化です。

――やはり業務の効率化にも繋がりましたか?

三田氏●　そうですね。貸出しのフローが実際の業務に合ったストレートな物になりました。たとえばパソコンですと、まずユーザーから申請が来ます。この際、どういった用途で使うか注文されるのですが、スペックは「Convi.BASE」のデータベースに入っていますので、その用途にあったスペックの物を検索して貸出しするといった流れです。履歴も残せるし簡単です。また、棚卸し業務に関しても、思い立ったときに私一人で保管スペースにある180台のIT機器の棚卸し作業をやってみたのですが、も

のの30分で終わってしまいました。以前なら、少なくとも半日はかかっていたと思いますから本当に驚きました。

――それはかなりの業務効率改善になりますね。

三田氏● そうですね。普段運用している私達も助かっていますが、現場に作業を投げるにしても、棚卸し作業自体がバーコードを読み取るだけと簡単なので、現場にかかる負担が小さくてお願いしやすくなりました。

わかりやすいインターフェイスで日常業務からも業務効率化へ

――登録などの日常の管理作業も変化がありましたか?

三田氏● 大量に同じ機種のパソコンを導入した際など、複数点登録する際も1台手入力すれば、残りはほとんど手間がかからず入力出来るので助かっています。また、履歴の閲覧も容易で物品の流れが把握しやすくなりました。導入時にバーコードのシールを貼る作業が少し手間と言ったら手間ですが、それが済んでしまえば後の管理は本当に楽です。

――固定資産や備品の他に、リース資産やレンタル品なども管理されているそうですが、その点で何か問題はありますか?

三田氏● 確かに管理が煩雑になりがちですが「Convi.BASE」は柔軟に対応出来ています。たとえば、以前は管理項目を1つ増やすだけでも、わざわざ社内の担当にシステムを変更してもらわなくてはいけなかったのですが、簡単な操作で増やすことが出来るようになりました。

――では、システムとしての使いやすさという点ではどうでしょうか?

三田氏● 「Convi.BASE」はインターフェイスが良く出来ていてストレス無く使うことが出来ますね。そのお陰で最近業務の担当者が変わったのですが、引き継ぎもスムーズに行えました。

佐藤● 簡単に使うことが出来るというのは開発時のコンセプトの一つで、メイン画面一つで必要な情報が確認出来、さらに様々な作業が出来るように工夫しました。棚卸しのための一つのツールとして、お客様に負担を強いることなくお使いいただかなくては意味が無いので、インターフェイスにも重点を置いて開発しております。

――導入時や導入後のアフターフォローはいかがでしたか?

三田氏● 導入自体は本当にすんなりと済みました。アフターフォローも親切でマニュアルを読んでも分からないことがあれば、電話ですぐに教えていただけていて助かっています。担当の方がいらっしゃらなくても、操作方法などの質問はネットレックスの他の社員の方が丁寧に説明して下さり、安心して運用出来ています。

ユーザー部署からもアプローチをさらなる業務効率化を目指して

――お話を通じて、「Convi.BASE」導入でかなりメリットが大きいようですね。

三田氏● そうですね。先程申し上げましたが、本当に棚卸し業務を簡便にこなせるようになりました。「Convi.BASE」は、物の動きをスムーズにコントロール出来るシステムなので、その点が棚卸し業務を簡便化してくれるのではないかと思います。

――最後に、これから「Convi.BASE」に期待することを教えて下さい。

長田氏● 「Convi.BASE」は実際に使っていて特に問題点も無く、管理者側から見て素晴らしいシステムだと思います。要望としましては、ユーザー部署側からも、アプローチ出来るようになればいいですね。そこまでいけば、更なる業務効率化に繋がると思います。

佐藤● ネットレックスでは、もう一歩先のステップとしまして、ユーザー部署から遊休資産の把握などが出来るWeb公開オプションをご用意しております。お伺いしたWeb公開オプションに不足している登録機能などのご要望は今後の開発計画の中ですすめていきたいと思っています。このようなお客様の声の積み重ねの中から、「Convi.BASE」を発展させ、棚卸しや資産管理業務の改善だけでなく、遊休資産の有効活用、資産投資の効率化などに繋げていただけるパッケージにしてきたいと考えています。

ITエンジニアリング株式会社
千代田化工建設株式会社の情報部門として培ったプロジェクトマネジメントのノウハウと、装置産業向け製造・生産管理システムに関する数多くの経験をベースに、業務のIT化から、システム構築、運用に至るまでのライフサイクルすべてに対し、お客様の視点に立ったIT支援業務を展開しています。

ITエンジニアリング株式会社
〒221-0031
横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノウェイブ100ビル11階
TEL045-441-9123

NETREQS
株式会社ネットレックス
〒135-0044 東京都江東区越中島1-2-7 アスミビル9F
TEL:03-5639-0561 http://www.netreqs.co.jp

ネットレックスユーザー事例

株式会社 ミクシィ

要望を形に。きめ細やかなサービスで業務効率化へ

バーコードによる資産棚卸し支援ソフトウェア
資産棚卸し支援パッケージ
Powered by Convi.BASE コンビベース

ユーザー数1,500万人を越える日本最大のソーシャルネットワーキングサービス(SNS)「mixi」、インターネットを活用したIT系求人情報サービス「Find Job !」を運営する株式会社ミクシィ。

事業規模の拡大と共に、主にパソコンやサーバー機器を始めとした業務上不可欠な社内資産が倍増。資産の棚卸し業務にかかる人的リソースとヒューマンエラーなどが悩みの種となりつつあった。そこで導入したのがネットレックスの「Convi.BASE」。その現場での活用と評価について伺った。

Interview

●写真左より
株式会社 ネットレックス　森本 哲行
株式会社 ミクシィ
人事部 総務グループ リーダー　浜田 加奈子
開発部 システム運用グループ バックオフィスチーム　松金 智美
開発部 システム運用グループ バックオフィスチーム　越田 早苗

棚卸しの負担をピンポイントに軽減する「Convi.BASE」

―早速ですが、「Convi.BASE」導入前の棚卸し方法について教えて下さい。

浜田氏　現物にラベルライターを使って番号を打ったシールを貼り、それらをExcelのシートで管理していました。棚卸し作業は、総務の人間と現場の人間が2人1組になって読み合わせをするという方法で行っていました。弊社設立当初は社員ひとりに、机とイス、パソコンとそれほど資産はありませんでしたが、「Convi.BASE」を導入する頃には社内資産数が数百件を超え、棚卸し作業でもヒューマンエラーが目立っていました。

―棚卸し作業の負担が増えてきたという中で、「Convi.BASE」を導入するきっかけはどういった形だったのでしょうか?

浜田氏　こういった棚卸し業務の支援ソフトがないかインターネットで検索したのがきっかけですね。その中からネットレックスさんを含めて3社にデモに来てもらって、その中から「Convi.BASE」を選ばせて頂きました。

―3社のデモの中から「Convi.BASE」を選ばれた理由はどういったところでしょうか?

浜田氏　まず、資産の現物管理や棚卸し作業という業務に特化しているということ。さらにコスト面も含め弊社の規模に合っていたという点が大きかったですね。他社のパッケージは会計と連動しているなど、「現物管理・棚卸し”だけ”」というものではなく、その分コストもかさみました。現物管理や棚卸し業務はあまりコストをかけられない業務ですが、「Convi.BASE」はコスト面においても十分満足のいくパッケージでした。

森本　もともとネットレックスはファシリティマネジメントや資産管理のシステム開発依頼を受け、その会社のためにシステムを開発するという形で事業を展開してきました。そんな中、2004年に資産管理のアンケート調査を広く行ったところ、

- 施設・資産管理は社内運営の一部であり、あまりコストをかけられない
- 本当に求められているのは、特化したツールである

ということがわかりました。そこで、これまでの開発経験やノウハウを生かしながら、資産の現物管理や棚卸しに特化したシステムとして「Convi.BASE」が生まれました。今までの経験やノウハウと、本当に必要な業務に特化したことによってコストも大分抑えられたと思います。

スムーズな導入と、満足いくサポート体制

―実際に「Convi.BASE」を導入するまではいかがでしたか?

浜田氏　上場前のバタバタとした時期に導入しましたが、データベースの作り込みの段階から親身にサポートを受けることができて、本当にスムーズに導入することができました。データの入力、バーコードの出力・貼り付けといった導入作業は弊社で行ったのですが、事前のデモ、説明やサポートのお陰で問題なく作業もできました。

―導入後のサポートはいかがですか?

浜田氏　何かあっても、すぐに連絡が取れてサポートして頂ける点に大変満足しています。また、改善点がソフトウェアのバージョンアップに反映されるのも早いですね。

森本　基本的に年1回メジャーバージョンアップをしていますが、その間に数回のマイナーバージョンアップをします。これらは実際にお客様から頂いたご要望を参考に改良していくという面が強いですね。お客様からのご要望を社内で優先順位を付けさせて頂き、高いものから順に実装させて頂いています。

棚卸しが簡単で正確に

―では、実際に「Convi.BASE」を導入して、棚卸し業務はどのように変わりましたか?

浜田氏　まず、読取ミスや記入ミスなどヒューマンエラーが格段に減りました。データベースを一本化できたことも大きいです。棚卸しの結果、現物と管理データの不一致が一目

で分かり、すぐに結果を反映できることも大きい変化です。また、導入当時よりも社内資産数は8倍近くになりましたが、ハンディターミナルを使うことで、社内で作業分担することができ、8人4チームで1日半というスピードで棚卸し業務ができるようになりました。

―かなり業務が効率化されたようですね。

浜田氏　はい。おかげさまで弊社も従業員が2008年9月末の段階で262名となり、社内資産数も年々増加しています。導入前ですら丸4日間かかっていた棚卸し作業ですから、もし「Convi.BASE」を導入していなかったらと想像するだけでもぞっとしますね。バーコードを読み取るだけという棚卸しの簡単さだけでなく、その作業を分担して行うことが出来るようになったというだけでも大きな業務効率の改善で、それらは数字としても実感できています。

―「Convi.BASE」を導入してかなりメリットが大きいようですね。

浜田氏　そうですね。社内では年1回以上棚卸しをするという規定があるのですが、正確を期すために「Convi.BASE」導入前は年に4回棚卸しを行っていました。「Convi.BASE」導入後は監査の方から資産管理・棚卸し業務の正確性が認められ、年2回の棚卸し作業でも十分満足できる結果が得られるだろうと評価を受けています。作業毎に履歴を残すことができる点や、各資産の運用場所・遊休資産の一覧など客観的なデータを簡単に抽出できるようになった点にもメリットを感じていますね。

―今回、更にConvi.BASEのWeb公開オプションを導入されるとお聞きしましたが?

浜田氏　今まで、データは「Convi.BASE」を導入している端末上でしか管理することが出来なかったのですが、今回Convi.BASEのWeb公開オプションを導入し、社内のWeb上でも遊休資産の一覧が見られるようになります。

何か必要なものが出たときに現場でも簡単に確認してもらうことができて、遊休資産の有効利用が図れると思っています。

森本　この度、Convi.BASEのWeb公開オプションをリリースしました。Convi.BASEのデータをWeb上で公開し、各部門や各拠点のブラウザから資産状況や遊休資産の把握ができるという機能ですが、やはりお客様からの声から生まれたものです。こういったシステム面のバージョンアップやオプション開発はもちろんですが、実際に棚卸し作業の代行など人的サービスもこれまで以上に発展させてトータルにサービスを提供できるようにしていきたいと思っています。

RFIDの導入も視野に、さらなる業務改善化に向けて

―では導入してみて、逆に問題点は何かあったでしょうか?

浜田氏　問題は特にありませんね。強いて言えば今後期待していることとして、弊社では配線などの都合でかなり奥まったところにバーコードシールを貼らなくてはいけないということがあり、もっと簡単に読み取りができればと思います。また、『現場から申請→承認→資産の導入・移動』という流れを「Convi.BASE」にて一元的に管理できて、その流れを保存する機能があればと思います。

森本　前者のさらなる簡単な読み取りについては、いま社内でRFID(電波による非接触認証技術)による非接触型のシステムを検討中です。まだ、RFIDチップに技術的なハードルはありますが、近い将来ご提供できると思います。また、後者の管理の流れまでを一元化するサービスにつきましてもすでに鋭意検討中ですのでお待ちください。

浜田氏　それは本当に楽しみです。ぜひがんばって下さい。

きめ細やかなサポートとバージョンアップで日々使いやすい形へ

―「Convi.BASE」はさらに発展していくと思いますが、これからも活用できそうですか?

浜田氏　そうですね。こういった親身なサポート体制や、私たちユーザーの声をバージョンアップとして形にしてくださるので、非常に安心して「Convi.BASE」を使っていくことができています。振り返ってみても、「Convi.BASE」をいい時期に導入できたと思いますし、これからも期待しております。

森本　ネットレックスとしましても、さらにお客様にご満足頂ける商品・サービス作りを目指していきたいと思います。

株式会社ミクシィ
SNS「mixi」は、コミュニケーションのインフラとして、1,500万人を超えるユーザーの方にご利用頂いております。今後は、「ソーシャルグラフ(人と人とのさまざまなつながり)」や「コミュニケーション」というSNSのコア機能を強化する施策、外部パートナーと共同でサービスを構築するプラットフォーム展開などを実施することで、より多くの方々に「mixi」を楽しくご利用頂けるよう努めてまいります。

株式会社 ミクシィ
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前2-34-17
住友不動産原宿ビル17F

NETREQS
株式会社ネットレックス
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-11-10 PMO日本橋茅場町ビル8F
Tel. 03-5643-6743　https://www.netreqs.co.jp

●会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
●本事例中に記載の所属・役職・社名および内容はインタビュー当時のものとなります。詳細はお問い合わせください。

資産棚卸し支援パッケージ Powered by Convi.BASE

ネットレックス事例

山梨日本電気株式会社

導入・保守はお任せで運用はとにかく簡単 きめ細かな対応はとても好印象です

山梨日本電気株式会社は、「光デバイス」「磁気感応型（MR）センサー」「光海底中継器」の生産を中心に、最先端テクノロジーの開発を手がけている企業。携帯電話用のIC内臓MRセンサーの生産は月産1千万個を超え、世界一の生産量を誇っている。

山梨県大月市にある5階建ての本社工場には、全ての階にクリーンルームを設けるなど最先端の製造設備が整っている。各種製造・検査機器や材料などの数は膨大で、棚卸しの対象資産数は4000～5000以上にも上っていた。これまで棚卸しの管理システムはあったが、システム自体が古く、結局紙ベースの管理へ戻すことに。しかし現場担当者の不満が続出。そこで白羽の矢が立ったのがネットレックスの「Convi.BASE」だった。

Interview

左から
山梨日本電気株式会社
事業支援部　経理マネージャー
望月 照恭氏

山梨日本電気株式会社
事業支援部　主任
青山 智奈美氏

株式会社ネットレックス
ＦＭシステムソリューション事業部
営業部 営業課長
佐藤 宰

「面倒くさい」棚卸しはバーコードでの管理が最適

―そもそもなぜ、既存のシステムからConvi.BASEに変更しようと考えたのでしょうか?

事業支援部 経理マネージャー 望月照恭氏（以下、望月氏）

一番大きかったのが、現場からの声ですね。平たく言ってしまえば、「面倒くさい」というところでしょうか。これまでの大きな問題点としては2つです。

・システム自体が古く、組織変更に追いつかない
・リストを紙に出力してからチェックしていたので手間が掛かりミスも多い

― 組織変更に追いつかないという点とは、具体的にどういう事だったのでしょうか?

望月氏●　実は以前使用したシステムでもバーコードでの管理をしていました。ですが、そのシステムは完全にローカルなシステムであり、だいぶ古いシステムでした。開発会社が無くなってしまうなどきちんと面倒を見てくれなくなったという事情もありますが、リソースの制約もあり、会社の分割・統合といった組織変更に対応できなくなってしまいました。そこで一旦ゼロリセットしようということで、紙ベースでの管理に戻ったのです。

― なるほど、そこで人的コスト等の問題が再び発生したというわけでしょうか?

望月氏●　そうですね。インベントリーを紙に書き出して、目視でチェックするという原始的な方法です。当然ながら非常に多くの時間と人的リソースを消費してしまいました。特に弊社で管理している資産は4000～5000以上にも上りますし、クリーンルームには無塵紙という特殊な紙しか持ち込むことができないため、さらに余計な手間が掛かります。もちろん現場からの不満の声が続出しましたね。一回バーコードの便利さを知っているだけに、その不満は強烈です（笑）。そこで、以前のようにバーコードで管理できる便利なツールを早急に導入しようと検討しました。

製品に求めた最大の要素は「簡単」と「面倒見の良さ」

―Convi.BASEはどこで知ったのでしょうか?

望月氏●　弊社の会計システムを担当しているグループ会社（株式会社NEC情報システムズ）からの推薦で紹介を受けました。

― 製品選択の際、どういった点を最も重視しましたか?

事業支援部 主任 青山智奈美氏（以下、青山氏）

そうですね。実際に使用するのは私ですので、とにかく簡単に扱える製品であるかどうかという点を最も重視しました。それから弊社の業務にマッチする製品かどうかという点を見ました。

望月氏●　青山の立場は、システムを理解し、それを現場の担当者に説明するという役割ですので、サポートまでしっかり面倒を見てくれる会社であるか、なおかつインターフェースもわかりやすいか、という点を心配しつつ、期待もしていたと思います。

青山氏●　おかげさまで導入するまでは、何度も説明に来てくださりかなりの部分で製品を理解することができました。弊社でも十分活用でき、

サポートも頼りになりそうだと判断できました。

―Convi.BASEの良い点を挙げるとしたらどんなところでしょうか?

望月氏● まずひとつにバーコードで簡単に管理ができるところ。そして、自社開発に比べて安価にシステムが構築できるという点が気に入りました。また、パッケージ製品でライセンス契約であるため、バージョンアップ、不具合修正といった点で手間が掛からないことも魅力ですね。「餅は餅屋」ではありませんが、ネットレックスさんはこの分野に特化している会社ですので安心感もありました。

システムの移行はほとんどお任せで、非常にスムーズ

―そこで導入に至った、というわけですね。既存のシステムからConvi.BASEへの移行作業はスムーズに運びましたか?

望月氏● 既存データの移行を含めほとんどネットレックスさんにお任せしたので、非常にスムーズでした。こちらからお願いした要望は以下の2つです。

・一部の資産は既にバーコードシールが貼られているので、それを有効活用したい

・既存の経理システムと連携できるようにして欲しい

前者に関しては既存データをConvi.BASEに取り組む際、バーコードシールが既に貼ってある資産に関してはそれを活用できるようネットレックスさんに調整をしていただきました。新しい資産に関しては、Convi.BASEのラベルプリンターで出力したバーコードを活用し、増えるたびにその都度入力しています。

後者に関しては、現状では資産データをCSVに一旦書き出してから、会計システムに読み込むという操作で実現しています。

Convi.BASEでの初棚卸しは、とにかく簡単だった

―先日、Convi.BASEを使って初めて棚卸し業務を行ったということですが、実際に使用してみた感想はいかがでしょうか?

青山氏● とにかく簡単だった、というのが率直な感想ですね。まず資産の確認ですが、一つひとつシールの番号を確認することなくハンディターミナルで“ピッ”と読み取るだけですからとても便利です。ターミナルの液晶画面で設置場所や設置部署などがその場で確認できますので、移動された資産も一目瞭然ですね。クリーンルームへも持ち込めます。管理用シールは目立たない所に張ってあることが多いのですが、バーコードであれば手を伸ばすだけで読み取れるので、確認作業がスピーディーになりました。

それからPCへの入力ですが、これもPCへ直接接続してデータを自動送信できますので、入力ミス、入力漏れが無くなりました。以前は手入力でしたので、大幅な時間短縮になりましたね。

望月氏● 管理者の立場からみた場合、システムの導入から保守、サポートまで面倒見てくれることは非常に心強いですね。これはパッケージシステムだからこその強みかもしれません。たとえば、棚卸しの経理担当者が突然代わってしまった場合でも、ネットレックスさんが責任を持ってサポートしてくれる。自社開発システムではキチンと引き継ぎをしておかないと、なかなかこうはいかないでしょうから。

―現場の担当者からの声はいかがでしょう?

青山氏● 事前にネットレックスさんにシステムの操作説明会を開催していただいたことが良かったのか、実施日にはトラブルや質問もほとんど無く、スムーズに作業できたと喜んでいました。特にここは工場ですので、手書きよりバーコードなどの装置のほうが、皆さんにとって作業しやすいんだと思いますね(笑)。

期待以上のきめ細かな対応。これからも良きパートナーで

―最後に、ネットレックスの魅力をお聞かせいただけますか?

青山氏● 私としては、とても親身になってくれる会社という印象ですね。とても困ったことが発生してしまい、ネットレックスさんに電話で問い合わせた事がありました。あいにく、担当の方がいらっしゃらなかったのですが、電話に出られた方がすぐに調べて折り返してくれたのです。その時、大丈夫ですか、大丈夫ですか、と本当に心配してくれて…。その他の時でも、電話での問い合わせに対し、いつも快く対応してくれます。とても温かく、信頼できる会社だなと感じていますね。

望月氏● 率直に言って、期待以上のきめ細やかな対応をしていただいたところでしょうか。システム会社は比較的画一的な対応をすることが多いと感じていたのですが、ネットレックスさんは違いましたね。実は棚卸し直前に、緊急で行わなければならない作業が発生してしまったのです。週末でしたが、なんとか対応して下さったときは本当に嬉しく感じました。

特に弊社の経理は少人数で行っています。人が少ないだけに、多少お金をかけてでもこうしたツールでカバーしていこうと考えています。だからこそ、機敏に動いていただけることの必要性を強く感じています。ネットレックスさんには、弊社経理部の固定資産担当として、これからも良いパートナーとしてお付き合いしていきたい会社ですね。

テクノロジーと環境の調和を実現する世界一の光デバイス、及び光海底中継器の生産工場をめざします

弊社では、世界最高レベルの光デバイス、及び光海底中継器の生産工場をめざし、日夜技術革新に励んでいます。特に、各機能をコンパクトにまとめる「モジュール化技術」、完全自動化に対応する0.1ミクロンの高精度な「光実装技術」、AWGモジュールやMRセンサーなどの供給を支える「ウェハプロセス技術」の追求には全力を注いでいます。また環境問題にも積極的に取り組み、技術と環境の両面からの社会貢献を続けていきたいと考えています。

山梨日本電気株式会社
〒401-0016 山梨県大月市大月町 真木747
TEL 0554-23-2111(代) FAX 0554-22-6728
URL http://www.nec.co.jp/yanec/

NETREQS

株式会社ネットレックス
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-11-10
PMO日本橋茅場町ビル8F
Tel. 03-5643-6743 https://www.netreqs.co.jp

●会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
●本事例中に記載の所属・役職・社名および内容はインタビュー当時のものとなります。詳細はお問い合わせください。